

学校 教育 目標	みんながやけ あくわっ子 ~自分らしく輝く子の育成をめざして~ ○夢の実現に向かって行動する子(公)(開) ○あいさつから 輪を広げる子(徳) ○工夫して 学び続ける子(知) ○わたしもあなたも 命を大切に子(体)				
	創立 42 周年 児童生徒数: 65 人	学校長 荒井 智津子	副校長 小西 隆一郎	2 学期制	一般学級: 6 個別支援学級: 3
学校概要	主な関係校: いずみ野小学校、新橋小学校、いずみ野中学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	いずみ野中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈自己有用感〉 〈思いや考えを表現する力〉 〈相手のことを受容する力〉 〈自己決定する力〉 〈基本的な生活習慣をつくる態度〉	いずみ野小学校 新橋小学校 いずみ野中学校	夢の実現に向かって ・学びの目標の実現に向かって、挑戦し続ける子ども ・自他の違いを認め、進んで人とかかわれる子ども ・自尊感情を高め、自信をもっていきっていく子ども

中期 取組 目標	○自分たち一人ひとりが大事にされていると実感できる学校づくり ・子どもたちが、あいさつをもとに主体的に他者とかわかり、自他のよさを大切にしたい、自己有用感を高める教育活動を行う。 ・子どもたちが、なりたい自分を意識し課題を見出し解決して自分らしく輝くために必要な資質・能力を育む教育活動を行う。 ・教職員が、やりがいと働きやすさを感じ、生き生きと学び続け教師力や組織力、教育力を高められる学校づくりをする。 ・小規模校の強みをいかし、学校評価をもとにPDCAサイクルで日々の教育活動を改善し、子どもにとって魅力ある学校づくりをする。 ・学校と家庭、地域、関係機関が、連携・協力する学校づくりや学校統合を見据えた信頼される学校づくりをする。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①自分の考えや思いを堂々と表現できる子どもを育成するために、TTや少人数指導を取り入れて個別最適な学びや特別支援教育・協同的な学びを推進する。②自ら問いを見出し、仲間とともに高め合う日々の学習を実現することで、学力の向上を図る。③学校統合を視点にカリキュラムマネジメントを図る。
担当 研究部	
徳 豊かな心	①授業研究や年1回以上の授業公開を通して特別の教科「道徳」の授業力を高めることで児童の道徳性を高めるとともに、自他を大切にする教育活動を通して人権教育を推進し児童の人権意識を高めることで、豊かな心の育成を図る。②年2回以上のYPアセスメントを通して実態や変容に合った指導・支援をして、児童の安心感や所属感を高める。③栽培活動やたわわり活動を充実させて、相手の立場や気持ちを大切にしたい意識や自己有用感、人権意識を高める。
担当 児童指導部	
体 健やかな体	①学校保健委員会や保健集会、食育などを通して、保健への関心を高め、家庭の協力も得て、よりよい生活習慣の育成や改善を図る。②年間を通じて縄跳び運動に取り組み、運動する楽しさや健康の大切さを実感するとともに、向上心や粘り強く取り組む態度、運動の技能等を養う。縄跳び運動を通して、児童の自己肯定感を高める。
担当 保健部・食育部・体育部	
公開 自分づくり教育	①学校行事、児童会活動などを充実させ、夢や目標の実現に向けて自ら考え、行動する態度を育てる。 ②魅力的な「人・もの・こと」と出会い、より良く生きるための課題を見出し、主体的に課題とかかわり協同的に課題を解決する体験的な活動を通して、自己調整能力等を育成する。③自分づくりパスポートを活用し自分で目標を立て学習や活動を振り返ることを通じて自分自身の変容や成長を自己評価し、今後のよりよい自分づくりをする資質能力を養う。
担当 特別活動部	
児童指導	①「あくわスタンダード」をもとに、阿久和小学校がめざす子どもの姿や学校生活上の約束事等を子どもたちと教職員が朝会や集会などで共通理解したり各学級での指導で意識化させたりして、子どもたちが安心して学校生活を送れるようにする。②学校説明会や学校便り、懇談会などをもとに、保護者と共通理解をして学校と家庭の連携を強めることで、「安心して子どもを通わせることができる学校」をめざす。
担当 指導部(児童指導委員会)	
いじめへの対応	①日常的な情報共有や月1回いじめ防止委員会を通して、明確な方針のもとに具体的な対応や方向性等を共有し組織的な対応をして、児童が安心して学校生活を送れるようにする。②定期的にいじめアンケートや面談を行い、実態や困り感を把握して、いじめの早期発見・早期解決に努める。③豊かな心の育成を重視して未然防止に努めるとともに、いじめの原因から課題を見出し組織的に課題を解決して再発防止に努める。
担当 指導部(児童指導委員会)	
特別支援教育	①一人ひとりの特性を全教職員が共通理解し、支援の方法を共有したり関係機関との連携を図ったりして、計画的に合理的配慮を行う。②一般級と個別支援学級の交流学習や特別支援学校との居住地交流を通して、交流教育やインクルーシブ教育を推進して、人権意識を高める。③国際教室や特別支援教室を充実させて一人ひとりのニーズに合った合理的な支援を行う。
担当 指導部(特別支援)	
人材育成・ 組織運営(働き方)	①誰もが安心して働き、一人ひとりが自分らしく輝くことのできる職場づくりを目指す。②組織を工夫し、主体的な学校運営や充実した教育活動を推進する。③行事ごとに学校評価を行い自己点検をして、行事の精選を図り、教職員や児童の負担の軽減につなげる。④メンターチームを充実させ、すぐに役立つ指導・支援の方法を学び続ける教職員を育成する。
担当 教務部	
地域連携	①教育活動に参加できる機会をつくらたり懇談会の開催方法等を工夫をしたりすることで、保護者の関心を高めたり学校への信頼関係を深めたりする。②地域の教育力や材を学校教育活動に活用し、児童が閉校する阿久和小学校への感謝の気持ちをまちの方々と共有することができるような取組を行う。③児童や保護者、地域や教職員が安心して学校統合を迎えられるように、学校の取り組みをHPなどで発信し続ける。
担当 地域交流活動推進部	
教育環境整備	①校舎内外の環境整備に努め児童が安全に学習活動が進められるようにするとともに、校内の掲示板に成長や学習の様子を掲示し学習や生活への意欲付けや振り返りを支援する。②校内外の研修からICT危機の効果的な活用についての理解を深め実践し、情報・視聴覚機器のさらなる有効活用の方法等を共有し、教職員の資質・能力を高める。③閉校に向けて、市民の税金で購入した教育資産である備品・消耗品を大切にこたえ、意図的・計画的に適切な処理をする。
担当 情報部・教務部	